

平成18年度病害虫発生予報第4号

長崎県病害虫防除所長

【気象(平成18年7月14日発表 1か月予報 福岡管区气象台)】

九州北部地方では、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

気温は平年並が高いでしょう。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は平年並が高く、2週目、3～4週目はいずれも平年並でしょう。

要素別確率 単位(%)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

\* 予報対象地域：九州北部地域

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病(穂いもち) 紋枯病 穂吸汁性カメムシ類	- 並 並	やや少 やや多 並
普通期水稲	いもち病(葉いもち) 紋枯病 縞葉枯病 セジロウンカ(防除情報第6号) トビイロウンカ(防除情報第6号) コブノメイガ(防除情報第6号)	やや少 並 並 多 やや多 やや少	やや少 やや多 並 多 やや多 やや少
大豆	ハスモンヨトウ	-	やや少
いちご	うどんこ病 炭疽病	やや少 並	やや少 並
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	やや多 やや少 少 少	やや多 並 少 少
びわ	がんしゅ病(防除情報第7号) ナシヒメシンクイ	多 やや多	多 やや多
なし	ナシヒメシンクイ	やや多	やや多
ぶどう	べと病	やや多	やや多
果樹共通	カメムシ類 (注意報第6号を継続)	多	多
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノココクモンハマキ	やや少 やや少 並	やや少 やや少 並

農作物名	病 害 虫 名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
茶	チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	並 やや少 やや少 並	並 やや少 やや少 並

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

### 早期水稲

#### 1. いもち病（穂いもち）

##### (1) 予報内容

発生程度 やや少

##### (2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査（42筆）の結果、葉いもちの発病株率は0.0%（1.7%）、発生圃場率2.4%（21.0%）であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、葉いもちの発生を認めなかった（発病株率0.3%）。

#### 2. 紋枯病

##### (1) 予報内容

発生程度 やや多

##### (2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査（42筆）の結果、発病株率は0.4%（0.6%）、発生圃場率は19.0%（16.8%）であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発病株率は5.0%（32.4%）であった。

ウ 向こう1か月の気温は平年並か、高い見込みであり本病の発生に好適である。

##### (3) 防除上注意すべき事項

粉剤及び液剤は株元に薬剤が十分付着するよう丁寧に散布する。

#### 3. 穂吸汁性カメムシ類

##### (1) 予報内容

発生程度 並

##### (2) 予報の根拠

7月上旬のイネ科雑草におけるすくい取り調査（34地点）の結果、10回すくい取りあたり虫数は11.1頭（18.6頭）であった（表）。

表 イネ科雑草でのすくい取り調査における虫数の推移

種類名	H14	H15	H16	H17	平年値	H18
ホリハリカメムシ	0.6	0.3	0.8	0.68	1.2	0.44
クモヘリカメムシ	0.02	0	0.1	0.02	1.6	0.02
シラホシカメムシ類	0.2	0.2	0.2	0.25	0.6	0.2
アスジカスミカメ	6.6	4.9	8.5	15.9	15.1	10.4
計	7.4	5.4	9.6	16.9	18.6	11.1

注) 数値は10回すくい取りあたりの虫数  
 平年値はH8～17年の最大・小値を除いた平均値

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 出穂期以降の除草は本田へのカメムシ類の飛来を助長するので行わない。
- イ 本田への飛来が多くなる夕方に薬剤散布すると効果が高い。また、周辺雑草地も含めて広域一斉防除をおこなうと防除効果が高まる。

普通期水稻

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ア 7月上旬の巡回調査(113筆)の結果、発生を認めなかった(発生株率0.1%、発生圃場率4.3%)
- イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。
- ウ 7月以降、葉いもちの感染に好適な条件を満たした日が鰐浦、松浦、大瀬戸、福江で1～2日認められた(表)

表 7月以降のBLASTAM(葉いもち感染好適日出現判定モデル)判定結果

	鰐浦	厳原	芦辺	平戸	松浦	佐世保	有川	大瀬戸	長崎	島原	福江	口之津	野母崎
7/1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?
2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?
9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?
10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?
11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?
12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?
13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?

注) : 感染好適条件  
 ~ : 準感染好適条件  
 ? : 判定不能

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 7月上旬の巡回調査(113筆)の結果、発生を認めていない(発生株率0.0%、発生圃場率1.3%)。
- イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。
- ウ 向こう1か月の気温は平年並か、高い見込みであり本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

粉剤及び液剤は株元に十分薬剤が付着するよう丁寧に散布する。

### 3. 縞葉枯病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(113筆)の結果、発生株率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は2.6%(1.7%)であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

ウ 7月上旬の巡回調査(113筆)の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.0頭(0.0頭)、発生圃場率は11.5%(9.0%)であった。

エ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.0頭(0.0頭)であった。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 発病株は見つけ次第抜き取る。

イ ヒメトビウンカの圃場での発生に注意する。

### 4. セジロウンカ

7月14日付け平成18年度病害虫発生予察防除情報第6号による。

### 5. トビイロウンカ

7月14日付け平成18年度病害虫発生予察防除情報第6号による。

### 6. コブノメイガ

7月14日付け平成18年度病害虫発生予察防除情報第6号による。

## 大豆

### 1. ハスモンヨトウ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は平年よりやや少なく推移している。

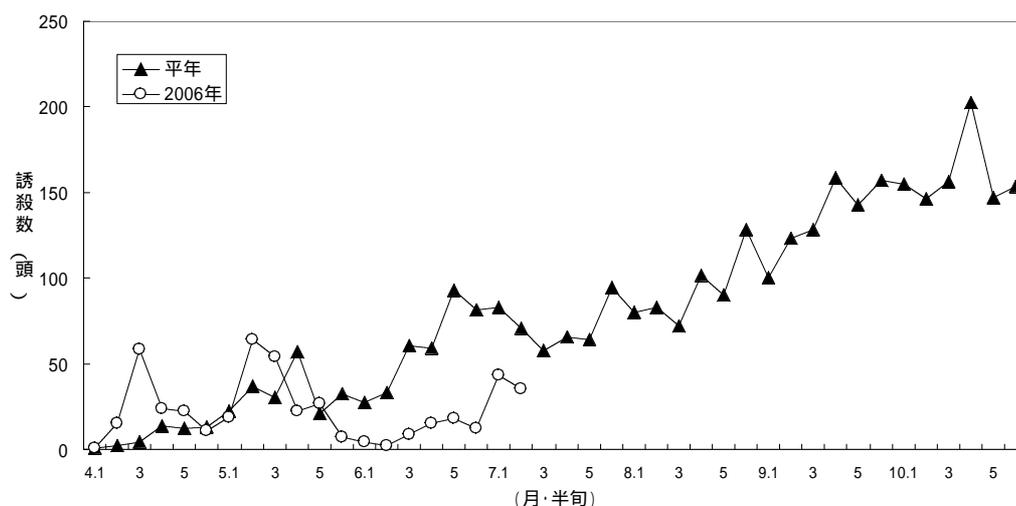


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市)  
平年: H8~H17の平均値(最大・小値除く)

## いちご

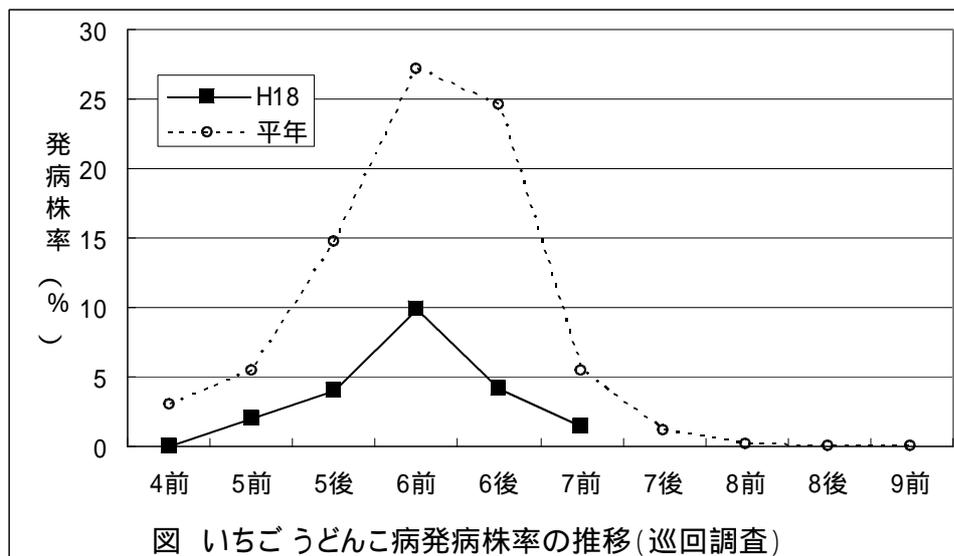
### 1. うどんこ病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(32筆)の結果、発病株率は1.5%(5.5%)、発生圃場率は21.9%(50.0%)であった。



### 2. 炭疽病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(32筆)の結果、*C. acutatum*による炭疽病(通称:葉枯炭疽病)は発病株率0.0%(0.4%)、発生圃場率は9.4%(6.2%)であった。*G. cingulata*による炭疽病は発病株率0.0%(0.0%)、発生圃場率は3.1%(1.5%)であった。

## かんきつ

### 1. かいよう病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率は0.5%(0.8%)、発生圃場率が43.6%(17.7%)だった。

#### (3) 防除上注意すべき事項

今後、台風の襲来時に急速に被害が拡大する可能性があるため、薬剤を散布する場合は、必ず台風接近前に薬剤を散布する。

### 2. 黒点病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率3.6%)

発生圃場率 21.9%)。  
 イ 向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

### 3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は0.9%(12.6%)、発生圃場率は23.1%(47.9%)であった。

### 4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(39筆)の結果、果梗部の被害果は認めなかった(被害果率0.7%、発生圃場率7.4%)。

イ 県予察圃場(諫早市)での黄色粘着トラップの誘殺量は平年より少なく推移している(図)。

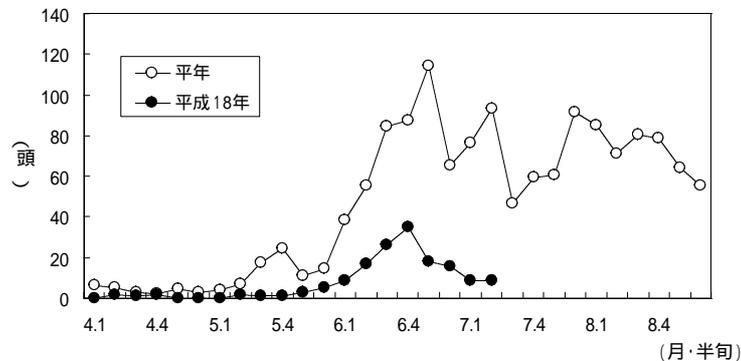


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況(諫早:黄色粘着トラップ)  
 平年は平成8~17年の平均

(3) 防除上注意すべき事項

ア 下表の予測発生ピーク日からその5日程度前までに薬剤散布をすると防除効果が高い。

イ ただし、発生が多い圃場では1果当たりの寄生虫数が、0.1頭に達する前に防除を行う。

ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる発生ピーク

地区名	多良見 元船	長与 吉無田	西彼 大串	諫早 川内	大村 小路口	佐世保 早岐	国見 神代	北有馬 谷川
第4世代	7/24	7/22	7/27	7/21	7/23	7/25	7/21	7/19
第5世代	8/9	8/9	8/14	8/7	8/10	8/11	8/7	8/5

注1: 発生ピーク日は各地区の選果場がある地点で算出している。

注2: プログラムに使用する気温データには、ながさき農林業情報システム500mメッシュを利用。

注3: 同一地区内でも標高や土地条件で発生ピーク日が異なるので注意する。

## びわ

### 1. がんしゅ病

7月14日付け平成18年度病害虫発生予察防除情報第7号による。

### 2. ナシヒメシンクイ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.1%、発生圃場率3.3%)。

イ フェロモントラップ(諫早市)での誘殺量は平年よりやや多く推移している(図)。

#### (3) 防除上注意すべき事項

食入口ががんしゅ病の感染拡大の要因となるので、がんしゅ病と同時に防除する。

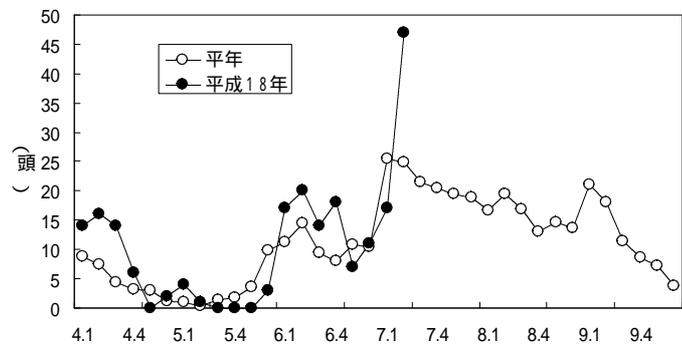


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況(諫早:フェロモントラップ) (月・半月)  
平年値は平成8~17年の平均

## なし

### ナシヒメシンクイ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

フェロモントラップ(諫早市)での誘殺量は平年よりやや多く推移している(びわの欄参照)。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 第2世代の成虫の発生ピークは7月上旬頃と予想されるが、ピーク日~その10日後頃までに薬剤散布すると防除効果が高い。まだ薬剤を散布していない園では早急を実施する。

イ 薬剤散布後も発生が多い園では、7~10日後に追加散布する。

ウ 多発生時は残効が長い合成ピレスロイド剤が有効であるが、ハダニ類やカイガラムシ類の多発を引き起こすことがあるので注意する。

エ 本虫の薬剤抵抗性は確認されていないが、同一系統の薬剤の連用は避ける。

# ぶどう

## べと病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.6%(0.2%)、発生圃場率は16.7%(9.4%)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本病は発病後の防除は困難であるので予防防除に重点を置く。

イ 発病葉は、可能な限り圃場外へ持ち出し、処分する。

# 果樹共通

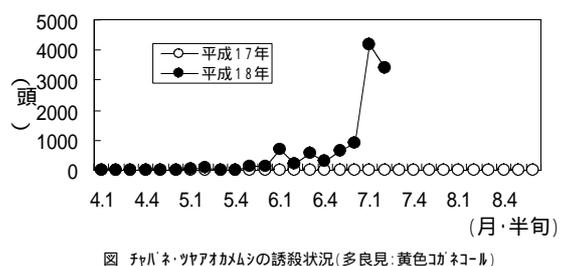
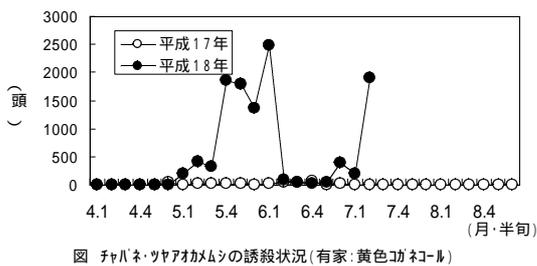
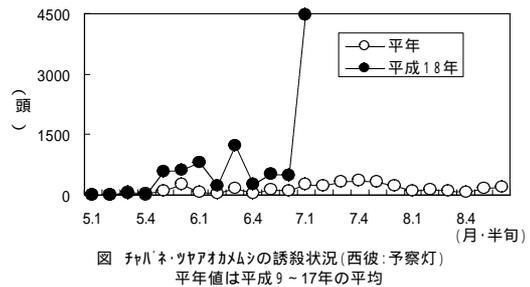
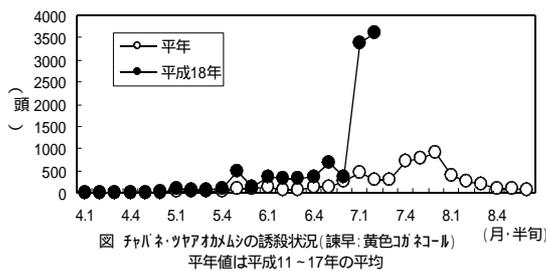
## カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

各地区のフェロモントラップ及び予察灯の誘殺量は平年より多く推移している(図)。



(3) 防除上注意すべき事項

7月7日付け平成18年度病害虫発生予察注意報第6号による。

# 茶

## 1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり発病葉数は1.2枚(9.2枚)、発生圃場率は45.0%(67.1%)であった。

## 2. チャノキイロアザミウマ

### (1) 予報内容

発生程度 やや少

### (2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は5.1頭(17.0頭)、発生圃場率は65.0%(81.0%)であった。

## 3. チャノココクモンハマキ

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、巻葉は認めなかった(巻葉数0.3枚 発生圃場率13.5%)。

イ フェロモントラップでの誘殺量(東彼杵茶業支場調査)は平年並で推移している(図)。

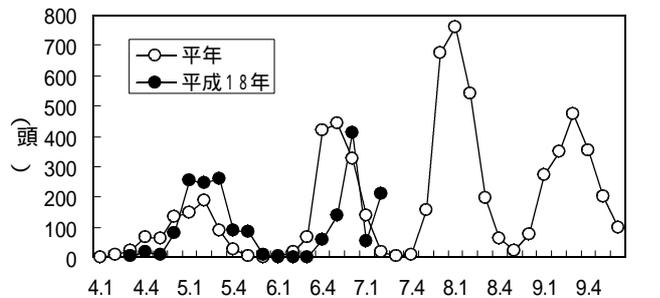


図 チャノココクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)(月・半月)  
平年は平成13年~17年の平均値

## 4. チャノホソガ

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたりの巻葉数0.1枚(0.1枚)、発生圃場率は、5.0%(5.2%)であった。

イ フェロモントラップでの誘殺量(東彼杵茶業支場調査)は平年並で推移している(図)。

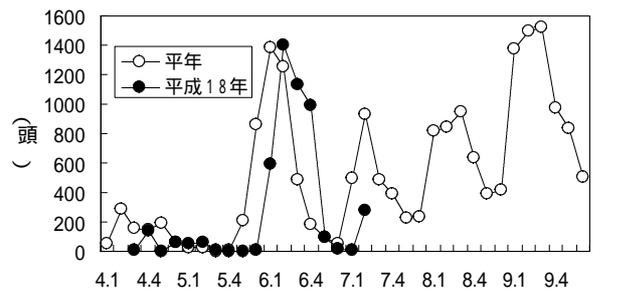


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)(月・半月)  
平年値は平成13年~17年の平均値

## 5. カンザワハダニ

### (1) 予報内容

発生程度 やや少

### (2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(寄生葉率 0.4%、発生圃場率 12.7%)。

## 6. チャノミドリヒメヨコバイ

### (1) 予報内容

発生程度 やや少

### (2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は0.4頭(0.9頭)、発生圃場率は20.0%(30.8%)であった。

## 7. クワシロカイガラムシ

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は2.2%(3.4%)、発生圃場率は30.0%(27.0%)であった。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は年3回発生するが、それぞれの世代のふ化盛期が防除適期である。

イ 1回脱皮してロウ質のカイガラを作りはじめると薬剤の効果が低下するので、下表の第2世代予測ふ化盛期当日～5日後に散布する。なお、独自にピーク日を現地調査し防除適期を判断している地域ではその判断を優先する。

ウ ふ化盛期日が過ぎている圃では早急に有機リン剤による防除を実施する。

エ 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。

オ 発生を認めていない圃でも新たな発生に注意する。

表 クワシロカイガラムシ第2世代のふ化盛期予測日

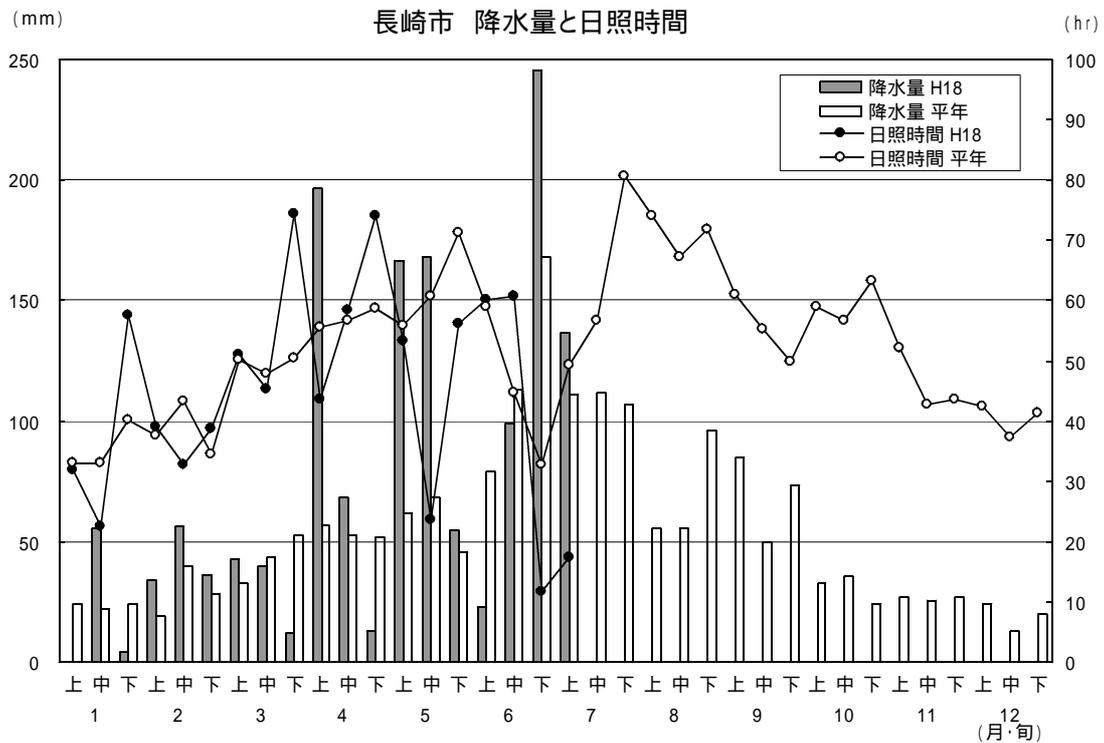
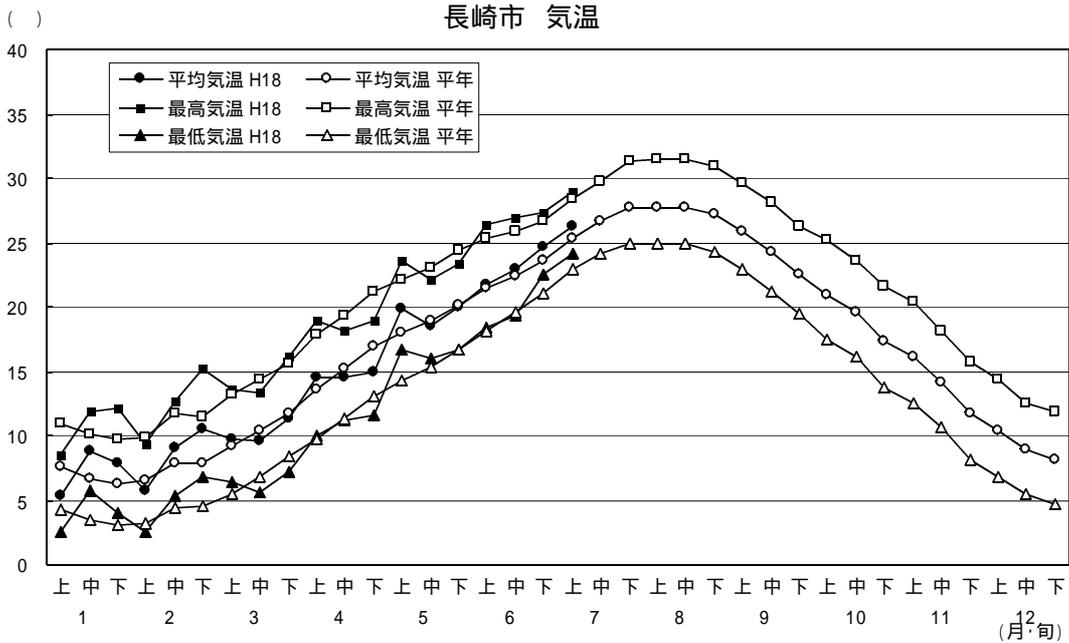
地区名	東彼杵 赤木	東彼杵 太の原	世知原 板山	世知原 木浦原	五島 大津
平成18年	7 / 17	7 / 24	7 / 26	7 / 22	7 / 12
平成17年(参考)	7 / 14	7 / 25	7 / 27	7 / 22	7 / 13

注1：ふ化盛期予測日は「有効積算温度則による防除適期予測法(東彼杵茶業支場)」により算出した。

注2：使用する気温データには、ながさき農林業情報システム500mメッシュ気象データを利用した。

注3：平成18年7月13日現在で予測し(1月1日～7月12日まで実測値)、7月13日以降のデータは平年値を利用した。

注4：同一地区内でも標高や土地条件で発生ピーク日が異なるので注意する。



「農薬使用基準の遵守について」

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルをよく読み、使用基準（適用作物、適用病害虫、使用濃度、使用量、使用時期、総使用回数）及び使用上の注意事項を守って、適正に使いましょう。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

「防除所ホームページ」を利用して、ながさき農林業総合情報システム（一部会員制アドレス：<http://www.n-nourin.jp/>）やその他の情報を閲覧することができます。

この情報に関するお問い合わせは、電話またはEメールでお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027， Eメール：kngs0301@sp.jppn.ne.jp